

## 都心のビルで捕えたクマネズミ

Roof rats, *Rattus rattus* L., captured in buildings within Tokyo

田中生男\* 元木 貢\*\* 伊藤靖忠\*

Ikuo Tanaka, Mitsugu Motoki and Yasutada Ito

### まえがき

最近、都心のビルにおいて、ねずみ駆除は専門業者によって行われることが多く、ドブネズミが対象になっている場合には、比較的容易に根絶されている。しかし、クマネズミが生息する場合は、薬剤による駆除が困難なことが一部でみられ、このような場所ではクマネズミ禍が起きている。わが国におけるビルのネズミは、いまだドブネズミが優占していると考えられるが、高田ら(1977)<sup>1)</sup>は大阪市内のビルでネズミの捕獲を行い、すべてがクマネズミであったことを報告している。また湯山(1979)<sup>2)</sup>も、ネズミの種構成が都心に向かうほどクマネズミの比率が高まることを報告している。

筆者らも今回東京の中心部のビルにおいてネズミの捕獲を行った結果、すべてがクマネズミであったので、1例として報告する。

### 捕獲場所および捕獲日

- イ) 東京都中央区銀座5丁目 Yビル: 1フロアーが約38m<sup>2</sup>の6階建て、全館が同一の飲食営業ビル。1978年11月14日に捕獲
- ロ) 東京都千代田区大手町 Nビル: 地上9階、地下4階で1フロアーが約4,300m<sup>2</sup>。地下1階の食堂で行った。1978年11月27日および12月4日に捕獲

### 捕獲法および計測

紙製粘着板(36cm×22cm)およびはじきわな(ビクター製)を用いて捕獲した。

\* 日本環境衛生センター環境生物部  
Department of Environmental Biology, Japan  
Environmental Sanitation Center

\*\* アベックス産業株式会社  
Apex Sangyo Co. Ltd.

粘着板は床面積33m<sup>2</sup>に対して20枚を目安として、また、はじきわなは適宜、出入口およびネズミの通路と思われる場所に重点的に設置した。翌日、捕獲された個体は、はじきわなでは板からはずし、粘着板では付着したままビニール袋に入れて研究室に持ち帰り、計測を行った。解剖は行わなかった。

### 結果および考察

個体別計測結果を表に示した。

捕獲された個体はいずれもクマネズミで、Yビル6匹、Nビルでの粘着板によるもの20匹、はじきわなによるもの23匹であった。

捕獲時期や捕獲場所によって、とくに特徴的な傾向はみられず、20gの若令個体から、200gを越える大型の個体までが捕獲されたが、体重分布をみると50g以下の個体と130g以上の個体が多かった。これらの若令個体は捕獲される1か月ほど以前に生まれた個体と考えられ、屋内でもこの時期に繁殖が盛んに行われたことを示している。しかし、20g前後の小さな個体や妊娠雌もとれていることから、冬期においても新生個体の産生が継続されていると考えられる。また、中間の体重をもつ個体が少ないのは、夏場には若干、繁殖率が低下したことを意味するものかも知れない。

今回ネズミを採集したビルでは、従来からワルファリンを主成分とする毒餌を常置して駆除を行っているが、一部若令個体の死亡がみられるのみで、多くは毒餌を喫食しているにもかかわらず効果がみられなかった。これは本剤に対するクマネズミの感受性が低いことによるのかも知れない。これまで、ビル内で捕獲されたクマネズミが、致死までに長期間を要することが報告されている(藤田ら, 1979, 1980, 元木, 1980)<sup>3)4)5)</sup>。

都会地のビル内でこのように多数のクマネズミのみが捕獲される原因は、クマリン系殺鼠剤を主体にした殺鼠

## 都内で捕獲されたネズミの記録

場所別	採集年月日	採集法	種類	性別	体重 (g)	体長 (cm)	尾長 (cm)	備考
Yビル	'78. Nov. 14	粘着板	<i>R. rattus</i>	♂	50	11.0	11.5	
"	"	"	"	"	160	17.5	18.0	
"	"	"	"	"	210	20.5	18.0	
"	"	"	"	♀	50	11.5	12.5	
"	"	"	"	"	155	18.0	18.0	腹部と尾の部分白化
"	"	"	"	"	160	18.0	17.5	
Nビル	'78. Nov. 27	はじきわな	"	♂	20	9.5	8.0	
"	"	"	"	"	25	8.0	7.5	
"	"	"	"	"	35	11.0	11.0	
"	"	"	"	"	130	15.0	16.0	
"	"	"	"	"	130	16.0	16.5	
"	"	"	"	"	175	18.0	18.5	
"	"	"	"	"	190	18.0	19.5	
"	"	"	"	♀	25	8.5	8.5	
"	"	"	"	"	35	11.0	10.5	
"	"	"	"	"	45	11.5	12.0	
"	"	"	"	"	50	12.0	12.0	
"	"	"	"	"	50	12.0	12.5	
"	"	"	"	"	155	17.0	17.5	
"	"	"	"	"	155	17.0	16.0	
"	"	"	"	"	170	17.5	19.5	
"	"	"	"	"	180	17.5	18.0	
"	"	"	"	"	180	18.5	18.0	
"	"	"	"	"	180	18.0	18.0	
"	"	粘着板	"	♂	40	10.0	10.5	
"	"	"	"	"	65	13.0	13.0	
"	"	"	"	"	160	17.0	17.0	
"	"	"	"	"	165	19.0	18.0	
"	"	"	"	"	185	17.0	18.0	
"	"	"	"	"	190	19.0	17.0	
"	"	"	"	♀	20	9.0	8.0	
"	"	"	"	"	35	10.0	9.5	
"	"	"	"	"	35	9.0	8.5	
"	"	"	"	"	45	10.5	11.5	
"	"	"	"	"	85	14.0	14.5	
"	"	"	"	"	105	15.5	16.0	
"	"	"	"	"	115	15.5	15.0	
"	"	"	"	"	130	16.0	17.0	
"	"	"	"	"	140	16.5	16.5	
"	"	"	"	"	195	17.0	18.0	
"	"	"	"	"	205	18.0	18.5	
"	'78. Dec. 4	"	"	♂	40	11.0	12.0	
"	"	"	"	"	50	13.0	11.0	腹部の部分白化
"	"	"	"	"	50	11.5	11.5	
"	"	"	"	"	150	18.0	18.0	背面に斗争傷あり
"	"	"	"	♀	20	7.0	7.0	
"	"	"	"	"	185	17.5	16.0	妊娠個体
"	"	粘着板	"	♂	160	18.0	17.0	
"	"	"	"	♀	約60	—	—	粘着しすぎ著しく破損

法のみによるのではなく、湯山も述べているように建物の構造や温度といった環境条件などが、クマネズミの生息に適しているようにも思われ、住宅地で行われた改築や新築によってクマネズミが減少し、ドブネズミが優占化した現象(矢部ら, 1972)<sup>6)</sup>と対照的で興味深い。

- 5) 元木貢: ビルにおけるクマネズミの防除, ねずみ情報25: 37~39, 1980.
- 6) 矢部辰男, 森谷清樹, 原田文雄: 城ヶ島の住宅地における家ネズミ(鼠)の種類構成の変化, 神奈川衛研報告 No. 2: 51~54, 1972.

引用文献

- 1) 高田季久, 他: 都市のネズミの生態—ビルのネズミ—1, 個体数の推定, 衛動28(1):27, 1977.
- 2) 湯山洋介: 都市におけるネズミの種類構成の変化, 環境衛生26(1):16~20, 1979.
- 3) 藤田章, 永沼清久, 高田季久: クマネズミのワルファリン抵抗性について, 衛動30(1):46, 1979.
- 4) 藤田章, 永沼清久, 高田季久: クマネズミのワルファリン抵抗性について II, 衛動31(2):132, 1980.

Summary

Rat trappings using sticky traps and snap traps were carried out in two concrete buildings in the center of Tokyo, in November 1979.

Only the roof rats, *Rattus rattus*, were captured with 21 males and 28 females and their body weights ranged 20 g to 210 g with 109 g in average.

The fact that many young rats were captured in this season indicates that, even during the winter season, the rat breeds continuously to breed in such buildings.